

分科会名  図画工作科	会 場	川崎市立川中島小学校
	助言者	川崎市立小学校図画工作科研究会会長 中臣 信丈
平成30年6月13日(水)	授業者	川崎市立川中島小学校 魚住 久美子
	司会者	川崎市立 宮崎小学校 黒川 晃子
	記録者	川崎市立 宮崎小学校 小野田 浩士
	世話人	川崎市立 小学校 小路 隆之
	出席者数	95名

## 1 提案の概要

### 「ゆらゆらゆらりん かざるんるん」 A表現(2) 工作に表す

- 活動のねらい…紙コップなどの身近材を土台として、思い思いの方法でゆれる飾りのつくり方を考え、楽しみながらつくる。
- 第1学年のこの時期はどの領域においても初期の段階であり、工作についても、児童ははさみやのりの扱い方にこれから十分に慣れていくであろうといった段階である。用具を思いのままに使える経験をすることで、これからの工作の活動がさらに充実したものになると考えている。
- 材料である身近材の紙や折り紙などの形や色に児童が着目しながら、ゆれる飾りをつくるには材料や用具をどう使っていこうかと楽しみながら考えられるようにしていきたい。そして、描画材はあえて使わないようにし、絵をかきたくなった時に、はさみとりのり・折り紙などで工夫できる力をつけていけるようにしたい。

## 2 研究協議の概要

### 〈グループ協議〉

#### 【みてみてボードについて】

- ・みてみてボードは自分が作った喜びをアピールするようなものを感じた。
- ・みてみてボードは「自己評価」をする場になっていた。  
⇒ねらいは造形的な視点を子どもたちに意識してもらうために考えた。(授業者)  
⇒授業中には使う時間がない時は、写真を撮っておいて後で聞き返す。(授業者)

#### 【準備した材料について】

- ・材料ではるとゆらゆらするものがもっとあってもよかったのではないか。
- ・風に揺れやすい材料がもっとあったのではないか。
- ・材料の基準と、ひもの長さなどを決めた経緯を教えてほしい。  
⇒「はさみとりのり」を十分に使ってほしいという思いから、選んだ。  
あえて揺れにくい材料にとどめることで、児童の発展的な工夫をねらった。(授業者)

### 〈指導講評〉

- ・主体的に学ぶとは→「一生懸命やる。楽しんでやる。」だけでは達成されない。①学習課題を自分のものとしてとらえているか。②見通しをもって自ら追求できているのか。③自分で選択して、決定しているか。この3点がそろってはじめて主体的になる。
- ・深い学びとは→自分が「こういう形を表現したいんだ」と思ったときに、それを表せるだけの技能が身についているか。今回は「ゆらす」に関して、子どもたちは壁にぶつかってしまった。揺らすにはバランスをとらなければいけない。いざ吊るしてみても、その瞬間にどのような手立てが打てたか、もう少し改善の余地があったのかもしれない。
- ・新学習指導要領では「資質・能力」の点から、再整理されている。子どもたちにどんな力をつけていきたいのか、を明確にする。創造的スキルは十分に慣れることで、表したいことをもとに発揮される。

分科会名

図画工作科

平成30年6月6日(水)

会場 川崎市立 新城小学校

助言者 川崎市立 東小田小学校校長 加藤順也 先生

授業者 川崎市立 新城小学校 田口雅之 先生

司会者 川崎市立 川中島小学校 眞砂野礼 先生

記録者 川崎市立 向丘小学校 藤井敬三 先生

世話人 川崎市立 今井中学校 千葉陽子 先生

出席者数 130 名

## 1 提案の概要

題材名「LIVE SUIBOKU」A表現(1)絵に表す

## 2 研究協議の概要

① 〈グループ協議〉二つの視点についてグループで話し合う。

(視点1)「造形的な見方・考え方が働くような手立て」として有効だったもの

(視点2)子どもが「創造的な技能」を働かせていた場面

② 〈全体協議〉

・描画材や用紙について(土橋小 倉持先生)

技法は子どもから出てほしかった。本番の用紙は練習の用紙で良かったのではないかと思った。

・作業中の音楽(BGM)について(宮崎小 小野田先生)

時間と雰囲気づくりの為に使った音楽が効果的でメリハリもついて良かった。

心象表現として使うのであればもっと最初に聞かせていた。

子どもたちはあまり聞いていなかったのだからつられている子が少なく表現を変えている子はいなかった。

・評価の見取り方(稗原小 石川先生)

【創造的な技能】筆や、たわしなどの用具の使い方の工夫や型紙などの利用している児童を主に評価した。

【発想構想の能力】今まで考えていたものから進めていくうちに変化していった児童を見た。

【関心意欲の態度】もっと濃淡に関して意識してほしかったので、途中で触れた方が良かったかも。

・作品づくりで困っている子への手立て(向丘小学校 白石先生)

関わりあっていて、困っている子はいなかったように感じる。

・テーマについて(宮崎小学校 小野田先生)

テーマが『生きている』なのか『自然』なのかが分かりにくかった。

心象表現だけにすると、汚い表現や気持ち悪い表現をすることが考えられたので、自然と結びつけ、イメージマップ作りに時間をかけた。

・技法について(新城小学校 鈴木先生)

表現をするのに水墨を使うことによって濃淡で表す良さを感じていた。

試す時間をたっぷり取ったことで、本番で描こうと思うことに向かっていった。

③ 〈指導講評〉(東小田小学校校長 加藤順也先生 図画工作科研究会指導主事 岩崎知美先生)

自信と余裕があった授業…授業者が繰り返し試したことが自信につながっている。

音楽がマイナスになっているか、イメージマップが効果的だったかは検証が必要である。

授業の進行方法…鑑賞(表現技法など)→② 試す(表現の多様性)→③ 表現(抽象と具現の一体化)

技法を生かして自分の思いを表現していく姿を見て深い学びを感じた。

### 【新指学習導要領】

・資質・能力を相互に関わりながら高める。

創造的な技能を身に付けるための授業となっていた。

主題(表したいものをもつ、表し方)を持っていることが大切。

三つの力を関連させながら育成することが大切。

・見方、考え方

〔共通事項〕に関わる。

創造的な技能は、授業だけでなく普段から使えるようになることも大切。

それぞれの児童に合った授業を作っていくことが大切。